

島のむんがたり

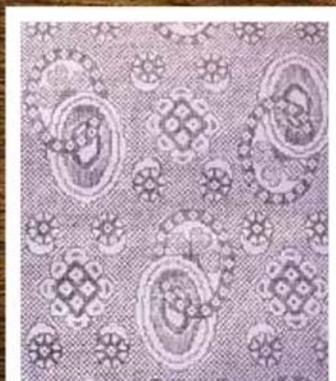
徳之島の大島紬

「紬なら龍郷の大柄、徳之島の
中柄と並んで喜界の小柄は有名で
ある」。これは昭和2年(1927
年)の月刊誌「奄美」12月号にあ
る記事見出しです。ここに記され
た「徳之島の中柄」は「徳中柄」
と呼ばれた徳之島で創り出された
大島紬の柄です。ここでは、昭和
2年の時点で徳中柄が大島紬の代
表的な柄と認識されていたことを
指摘しておきたいと思えます。

大正15年(1926年)、上原
紬工場が母間の地で紬の生産を開



(写真1) 上原紬工場の皆様

(写真2) 徳中柄「平和」
※大正15年～昭和10年頃

始しています(写真1)。徳之島町
誌編さんの過程で、同じく母間で
創業された仙太織物(株)様のご
厚意により昭和初期にデザインさ
れた図案をお借りすることができ
ました。仙太勝氏(現仙太織物(株)
会長)からのご教示によれば、龍
郷柄と違って徳中柄は画一的な柄
ではなく、何百種類とある柄の一
つ一つが異なり、多柄という特徴
をもっています(写真2)。当時、
上原紬工場図案部に勤められてい
た仙太森直氏は万年筆1本で図案
を描いていたということです。

昭和初期、上原紬工場で作られ
ていた大島紬は三越百貨店に卸さ
れていました。東京駐在の職員
がいらっしやったということか
ら、三越百貨店から東京の需要を



(写真3) 昭和13年製図「錦鞆」

キヤッチし、徳之島に伝えていた
と考えられます。昭和初期後半か
ら、柄の作風が変化しているのは
その反映のようです(写真3)。勝
氏の言葉を借りますと、「大正ロマ
ンの名残」です。

*貴重な徳中柄の図案や徳中柄を
再現した反物(写真4)をご提
供いただきました、仙太織物(株)
の仙太勝会長にこの場を借りて
御礼申し上げます。

【町誌編さん室 竹原祐樹】

(写真4) 青海波と観世水
※徳中柄として再現

問 郷土資料館

☎0997-82-2908